

【教育目標】
進んで学ぶ子ども
思いやりのある子ども
たくましい子ども



夢に向かって

～未来を奏でるきらめく感性をもつ児童～

学校だより No.10

令和6年3月1日

中央台東小学校

校長 松崎 健一

「皆さんで、元気で楽しい自分たちの中央台東小学校を創りましょう。」

元気で楽しい学校にするために～委員会活動～

子どもたちが、自分たちで決めたためあてに向かい、アイデアを出しながら委員会活動に取り組んでいる様子を2つ紹介します。

先週から、代表委員会の皆さんは“あいさつ運動”に取り組んでいます。委員会の話合いの中で「あいさつができていない」「元気がない」などの声が子どもたちからあがり計画したそうです。登校時には、昇降口前に並んだ代表委員会の皆さんと、登校する子どもたちとの明るい「おはようございます！」が飛び交っています。また、朝や昼の放送で「あいさつをしましょう！」と呼びかけをしたり、あいさつが上手な人を表彰したりと工夫もしています。



体育委員会の皆さんは、“全校鬼ごっこ大会”を企画し、2月20日の大休憩時間に行いました。事前にポスターや放送で呼びかけたところ、大人数が集まってしまい、安全面を考慮して急遽1～4年生で行うことになりました(5・6年生は2/28に延期して実施)。広い校庭が走り回る子どもたちでいっぱいになりました。逃げ切ることができた子には手作りメダルが授与されました。



どちらの委員会の企画も、担当教師の支援のもと、子どもたち自身が考え行動に移した取組です。子どもたちの主体性が育っていることを感じることで大変嬉しくなりました。3学期は短く慌ただしく過ぎてしまうイメージがありますが、児童も教師も互いにゆったりとした時間と場所が確保されていれば、このように有意義な時間を創造することができます。このような姿こそが、引き継がなければならない中央台東小学校の伝統だと考えます。

来年度、次の点を見直し教育活動を計画します

これまでの学校だよりでお伝えしてきましたが、本校の児童の実態から、今後も力を入れて指導すべき課題は「学びに向かう力、人間性など」に関わる“主体性”を育むことです。やらされている学習や活動ではなく、自ら進んで主体的に取り組む姿をさらに育てることが肝心であると考えています。そのためにも、“学校における働き方改革”も進めていきます。

各教科等の年間授業時数を見直します。

1年間の授業日数をもとに可能な授業時数が算出されます。これまでの、その時数をできる限り各教科の授業時数に配分し、5・6校時までの時間割を決めていましたので、各教科ごとに定められてる年間標準授業時数を大きく上回っていました。教師は児童と過ごす時間が長い分、授業の準備をする等の時間が勤務時間(8:00～16:30)内に充分取ることができず超過勤務になったり自宅に仕事を持ち帰ったりしているのが現状です。

そこで、来年度は各教科等の年間授業時数を見直します。

“学校における働き方改革”の目的

教師のこれまでの働き方を見直し、自らの授業力を磨くとともに、日々の生活の質や、教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちにより良い教育を存分に行うことができるようにする。



各教科ごとに定められている年間標準授業時数に基づき、指導するに十分な時数だけを確保します。

- ❑ これまでよりも、5校時6校時の日が減ります。
- ❑ 時間の創出は十分とは言えませんが、教師は、児童下校後の時間を有効に使って、翌日の授業の準備や各種打合せ、校務の事務処理をすることができます。

『学習の発表会』に代わり、新たに主体的に表現できる場を位置づけます。

これまでのような劇を中心とした『学習の発表会』を実施するには、相当の準備や練習時間を要し、“学校における働き方改革”の観点からは、決して持続可能な学校行事とは言えません。しかし、本校の児童の実態を踏まえると、改まった場で主体的に表現する機会は必要であると考えます。そこで、発表の出来映えを見ていただくのではなく、子どもたちが主体的に取り組む姿

を見ていただくことに重点を置く行事に見直します。



各教科及び総合的な学習における日頃の学習の成果を総合的に発展させ、主体的に表現する行事とします。



□ これまでの『学習の発表会』を大きく見直すことからネーミングを変えます。ただいま思案中です。

□ 令和6年度は、学校へ行こう週間に合わせ 11/7(木)・8(金)の2日間(午前中)で計画する予定です。

⇒例えば、1日目は1・3・5年生、2日目は2・4・6年生のように大きく2つに分けます。

□ 会場は体育館に限らず、各学年の発表内容により2階多目的室や3階多目的室、特別教室等を想定しています。

通知票は年2回とします。

通知票の作成については法的根拠はありませんが、学校での学習や生活の状況を保護者に知らせることによって、児童の努力の成果を明らかにし、次への一層の努力を促すとともに、児童の教育について保護者の理解と協力を求めることをねらいとして作成していました。保護者の方にとっては、お子さんの成長の記録の一つとして捉えて、大切に保管されている方もいらっしゃると思います。

これまで本校では、次の①②の形をとりながら、学期ごとに年間3回作成していました。

- ① 1学年の1学期の通知票は、入学して間もないことから各教科の評価は行わず、総合所見等の記載のみとしていた。
- ② 2学期の通知票は、全学年が11月末に個別懇談を実施しているため、総合所見を記載せず、各教科等の評価のみとしていた。

学校では、これらのことを踏まえるとともに“学校の働き方改革”の観点も考慮し、通知票の在り方について検討してきましたが、来年度から次のように見直します。

3学期制は変わりませんが、通知票の発行は9月と3月の2回とし、各教科の評価をし総合所見等も記載します。



□ 教師は、授業のない夏季休業中に通知票作成の準備に取りかかることができます。

□ 通知票の見直しに合わせて、例年11月末に行っていた個別懇談を7月に実施します。

□ 1学期に保護者との個別懇談を実施し連携を深めることにより、2・3学期にわたって、お子さんへの指導に生かすことができます。



校長室より

本日、6年生を送る会を開催しました。この会は5年生が中心となって企画し、各学年が準備を進めてきたものです。間もなく卒業する6年生に、これまでお世話になった「感謝の気持ち」を全校生で伝えることができました。詳しくは本校のホームページでご確認ください。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類扱いとなり、世の中の日常が戻ってきた感がありますが、コロナ禍を経験したからこそ、これまでの当たり前を見直す機会にもなりました。学校も同様で、制限のある中で何を目的として教育活動を行うのかを考えさせられました。

先日の授業参観日の際に「運動会で鼓笛を復活させてほしい。」という声をいただきましたが、結論から言うと復活は考えていません。なぜかというと、充実した3学期を過ごしたいからです。運動会で鼓笛を披露していたときは、6年生から5年生への引継を3学期に行っていました。

た。そのための練習は、朝や大休憩の時間にも及びました。当然、先生方の指導も必要となります。とても窮屈な日程の中で、委員会活動や6年生を送る会を実施していたのです。今はどうかというと、委員会活動では子どもたちが自分たちの考えや思いをもって工夫して活動する姿が増えてきました。大休憩には、多くの子どもたちが外に出て縄跳び運動を楽しんでいます。6年生を送る会に向けても、朝の時間に歌の練習をする学級があったり、時間を見つけて出し物の練習をする子どもたちがいたり、「感謝の気持ち」をどう表現するかを考えながら準備を進めています。子どもたちの「気づき、考え、行動する」過程を踏まえた、主体的に活動する姿が多く見られるのです。

このように充実した3学期を経て自信と希望をもって進学、進級してほしいと考えています。



《卒業式への参加者について》

- 卒業式には在校生は参加しません。
- ・在校生は、6年生を送る会で卒業をお祝いし、感謝の気持ちを伝えています。
- ・卒業式の予行には5年生が参加し、卒業する6年生を見て1年後の自分の姿を考えさせます。
- 参加する保護者等の人数制限はありません。

《3月27日に離別式を実施します》

- 新型コロナウイルス感染症が5類扱いとなったためです。
 - 子どもたちと教職員との別れの節目とするためです。
 - 春季休業中なので、出席しなければならない登校日ではありませんが、安全面を考え班での集団登校とします。式への参加は各家庭での判断となりますので、登校班の全員がそろわないところもあると思います。
- ※本日付けの別文書をご覧ください。